



命を大切にする心

校長 岩崎 あやの

6月3日の夕方、本校で大切に飼育していたウサギの「クッキー」が亡くなりました。クッキーは、その日の朝からかなり弱っており、多くの子どもたちが心配しながら見守っていました。亡くなったことを知った子どもたちは、それぞれの思いを口にしながら悲しんでいました。飼育委員の子どもたちは、毎日えさをあげたり掃除をしたりと、熱心にお世話を続けてくれていました。また普段から、多くの子どもたちが様子を見に行ったり、優しく声をかけたりしており、子どもたちにとってクッキーはとても身近な存在でした。



小屋には、「平成28年9月生まれ」と記されており、クッキーは本当に長い間、成文小学校の子どもたちと共に過ごしていたことを改めて実感しました。別れはとても悲しい出来事ですが、子どもたちにとっては命の尊さや、生きていることの大切さについて考える貴重な機会にもなったように思います。

学校では、避難訓練や食育など、さまざまな場面で命の大切さについて子どもたちに伝えていきます。すべての命は、長く受け継がれてきたかけがえのないものです。自分自身はもちろん、周りの全ての命も大切にし、思いやりの心をもって過ごしてほしいと願っています。

まもなく夏休みを迎えます。夏になると、毎年のように水難事故のニュースが報じられます。川や海、池などの水辺には楽しさがある一方で、大きな危険も潜んでいます。「少しだけだから」「大丈夫だろう」という油断が、取り返しのつかない事故につながる可能性があります。

楽しい夏休みにするためには、まず自分の命を守ることが何よりも大切です。危険な場所には近づかないこと、子どもだけで水辺に行かないこと、家族や地域の大人との約束をしっかりと守ることについて、ご家庭でもぜひ話題にしていただければと思います。

医師の日野原重明さんは、「命とは君たちが持っている時間である」という言葉を残されています。命というと心臓の鼓動や体のことを思い浮かべますが、日野原さんは命とは「自分に与えられた時間」とであると教えています。命には限りがあり、その命を支えている時間もまた限りあるものです。

ウサギのクッキーとの別れを通して、感じた悲しみや命の重みを忘れず、夏休みが子どもたち一人一人にとって、安全で充実した時間となることを心から願っています。

